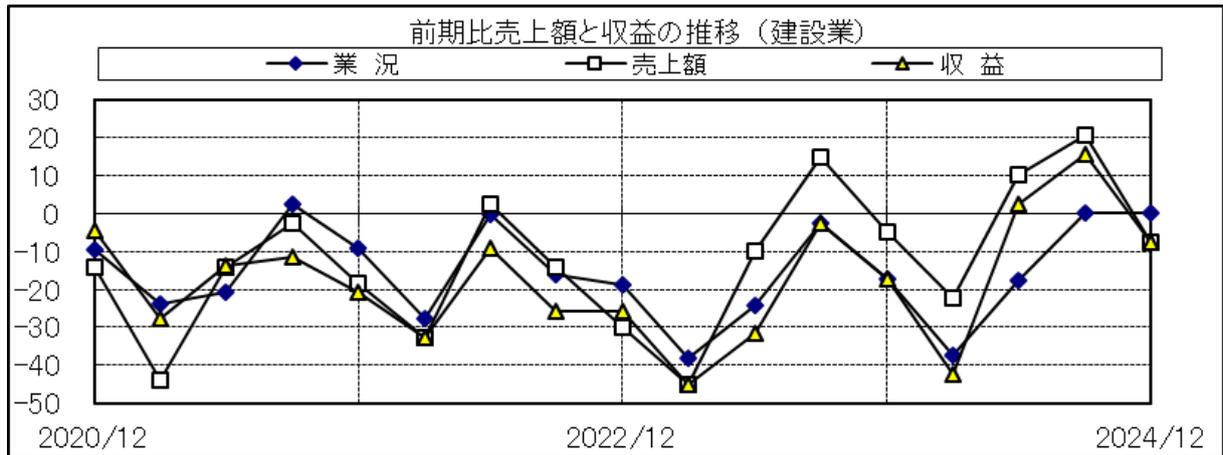


建設業 39 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-17.5	0.0	0.0	-12.9
売上額	10.0	20.5	-7.7	-33.3
収 益	2.5	15.4	-7.7	-23.1

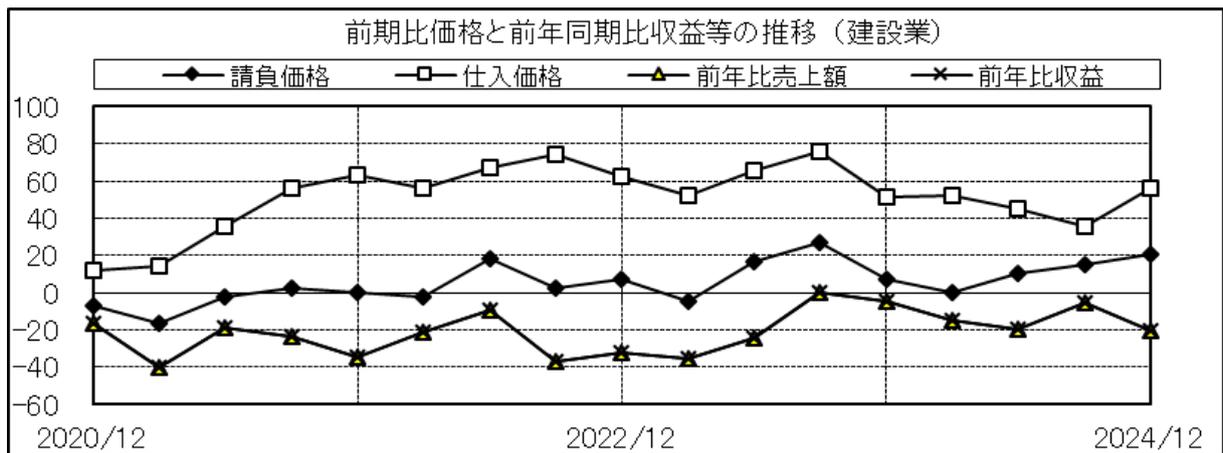
今期の業況判断 D. I. は 0.0 で、前期と同水準となった。前年(△17.1)比で 17.1 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は高い順に、静内が最も高く、次にえりも、浦河、三石、様似と続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、△7.7 で、前期比 28.2 ポイント下降。収益判断 D. I. は△7.7 で、前期比 23.1 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
請負価格	10.0	15.4	20.5	-2.7
仕入価格	45.0	35.9	56.5	35.9

請負価格判断 D. I. は 20.5 で、前期比 5.1 ポイント上昇、前年(7.2)比で 13.3 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 56.5 で、前期比 20.6 ポイント上昇。前年(51.2)比で 5.3 ポイント上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-15.0	-7.7	2.6	-2.6
人手状況	-47.5	-33.4	-46.2	-38.5

残業時間判断 D. I. は 2.6 で、前期比 10.3 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△46.2 で、前期比 12.8 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

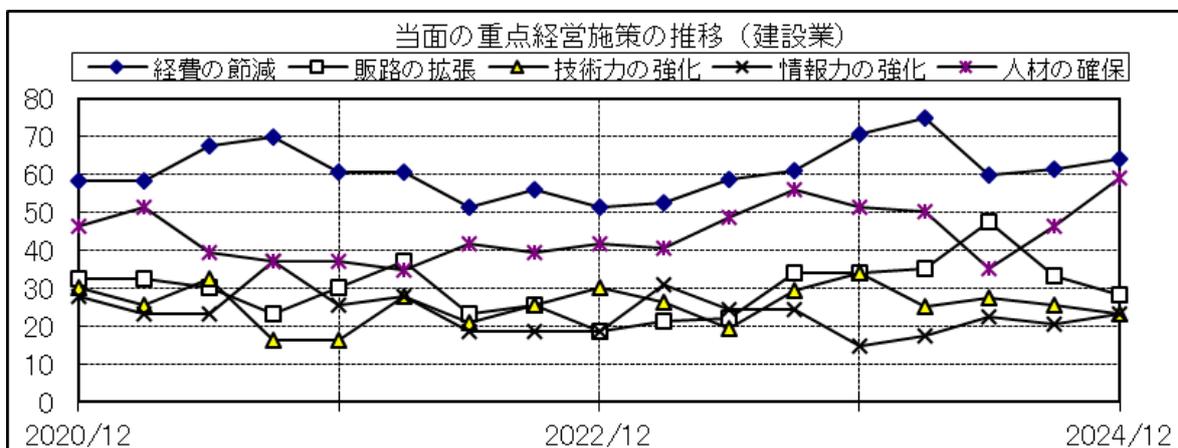
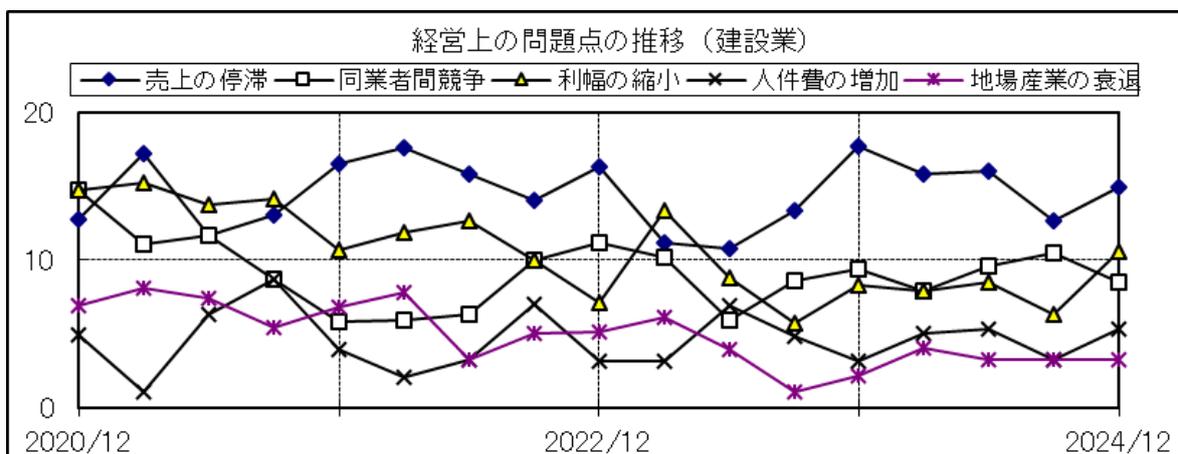
設備投資の充足感を示すD. I.は0.0で、前期(△5.1)比5.1ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は10.3で、前期(2.6)比7.7ポイント上昇した。設備投資は、前期1社に対し、4社の実施となった。来期の設備投資は、2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「人手不足」が23.4%と最も多く、次に「材料価格上昇」18.1%、「売上停滞減少」14.9%、「利幅縮小」10.6%、「同業者競合」8.5%、「人件費増加」5.3%、「天候不順」4.3%、「大手企業競合」・「諸経費増加」・「地場産業衰退」が3.2%、「下請確保難」2.1%、「合理化不足」・「資材置場確保難」・「技術力不足」が1.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が64.1%と最も多く、次に「人材確保」59.0%、「販路拡大」28.2%、「情報力強化」・「技術力強化」が23.1%、「労働条件改善」12.8%、「教育訓練強化」2.6%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I.は△12.9と、今期比12.9ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I.は△33.3と、今期比25.6ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I.は△23.1と、今期比15.4ポイントの下降を見通している。

予想請負価格判断D. I.は△2.7と、今期比23.2ポイントの下降を見通している。

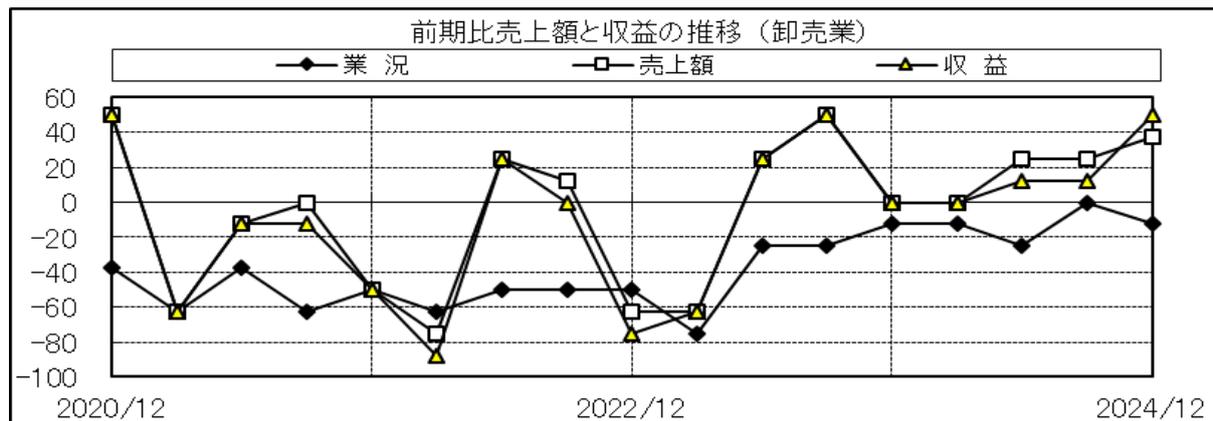
予想仕入価格判断D. I.は35.9と、今期比20.6ポイントの下降を見通している。

卸売業 8企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
業況	-25.0	0.0	-12.5	-37.5
売上額	25.0	25.0	37.5	-62.5
収益	12.5	12.5	50.0	-37.5

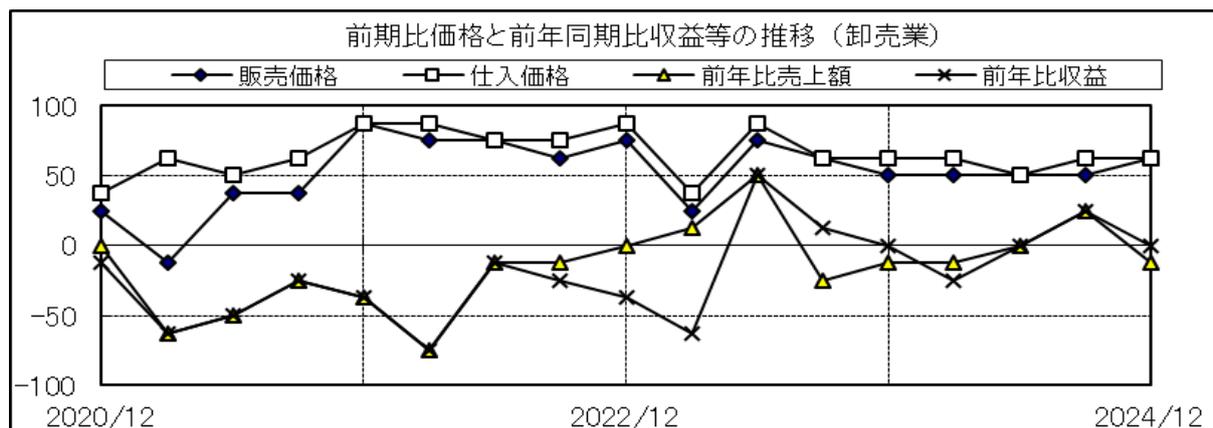
今期の業況判断 D. I. は△12.5 で、前期比 12.5 ポイント下降。前年(△12.5)と同水準となった。地区別 D. I. の水準は、浦河地区は上昇、静内地区は下降、様似地区は横這いとなった。売上額判断 D. I. は 37.5 で、前期比 12.5 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は 50.0 で、前期比 37.5 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
販売価格	50.0	50.0	62.5	-25.0
仕入価格	50.0	62.5	62.5	-25.0

販売価格判断 D. I. は 62.5 で、前期比 12.5 ポイント上昇した。前年(50.0)比 12.5 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 62.5 で、前期と同水準となった。前年(62.5)と同水準となった。業種別では、水産業は販売、仕入価格ともに横這い、食品業は販売、仕入価格ともに下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
残業時間	-12.5	-12.5	0.0	0.0
人手状況	0.0	0.0	0.0	0.0

残業時間判断 D. I. は 0.0 で、前期比 12.5 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は 0.0 で、前期と同水準となり、人手不足感に変動は無かった。

□ 設備投資の動き

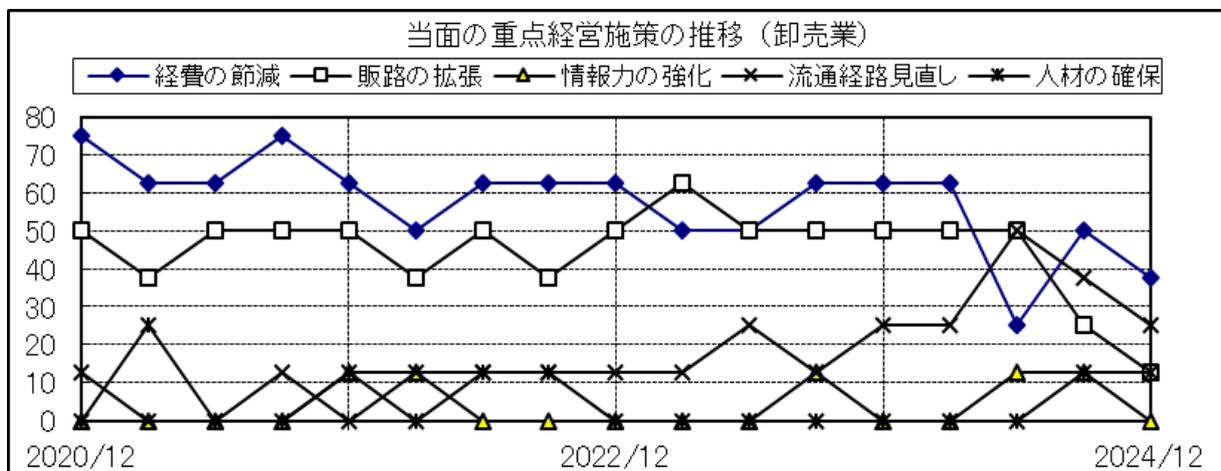
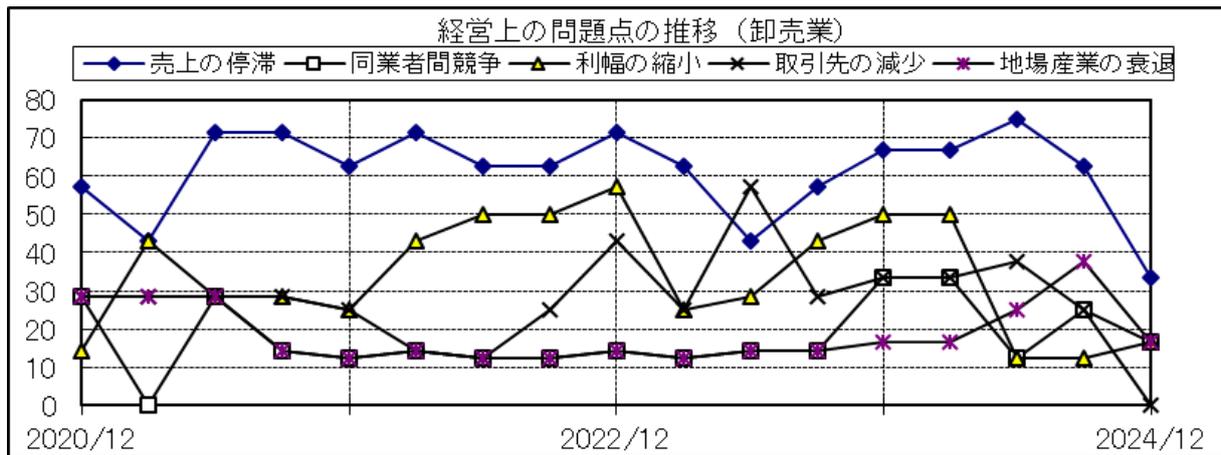
設備投資の充足感を示すD. I. は0.0で、前期(0.0)と同水準となった。

設備実施企業割合は0.0で、前期(12.5)比12.5ポイントの下降となった。設備投資は、前期1社に対し、実施した企業はなかった。来期の設備投資を予定する企業もなかった。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」・「値上要請」が33.3%と最も多く、次に「人手不足」・「同業者競合」・「利幅縮小」・「人件費増加」・「店舗老朽化」・「天候不順」・「地場産業衰退」が16.7%となっている。

重点経営施策では、「経費削減」が37.5%と最も多く、次に「流通経路見直し」・「労働条件改善」が25.0%、「販路拡大」・「提携先開拓」・「機械化促進」・「人材確保」が12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△37.5と、今期比25.0ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は△62.5と、今期比100.0ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は△37.5と、今期比87.5ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は△25.0と、今期比87.5ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は△25.0と、今期比87.5ポイントの下降を見通している。